

製品名: P2Y4 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15610**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:5000-1:20000
分子量	41kDa

抗原情報

遺伝子名	P2RY4
別名	P2RY4; NRU; P2Y purinoceptor 4; P2Y4; P2P; Uridine nucleotide receptor; UNR
遺伝子 ID	5030.0
SwissProt ID	P51582
免疫原	抗血清はヒト P2RY4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 159-208

背景

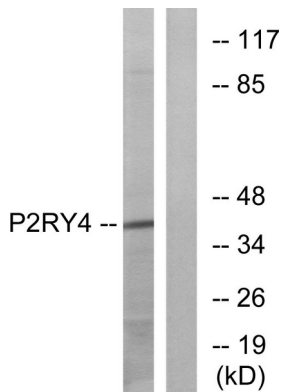
この遺伝子産物は G タンパク質共役受容体ファミリーに属する。このファミリーには、様々なアデノシンおよびウリジンヌクレオチドに対して、薬理的選択性が異なる複数の受容体サブタイプ（一部重複あり）が存在する。この受容体はウリジンヌクレオチドに

反応し、ATP には部分的に反応し、ADP には反応しない。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]機能: ホスファチジルイノシトール-カルシウムセカンドメッセンジャーシステムを活性化する G タンパク質に共役した UTP および UDP の受容体。ATP または ADP では活性化されない。PTM: Ser-333 および Ser-334 のリン酸化は、アゴニスト依存性脱感作および表面 P2RY4 の消失における重要なステップである。このリン酸化には PKC や他のカルシウム活性化キナーゼは関与しません。類似性:G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属します。組織特異性:膵臓。

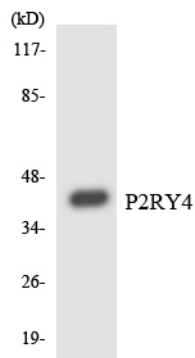
研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

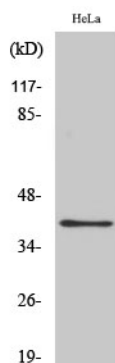
画像データ



P2RY4 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



P2RY4 抗体を使用した COLO205 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 500 に希釈した P2Y4 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析